

発言No. 1

受付No. 6

令和 4 年 11 月 21 日
9 時 40 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 19 番

氏名 田畑 敬二

答弁を求める者 ☐ 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(☐をつける) ☐ 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 浜田市空き家バンク登録物件改修事業補助金交付要綱について

- ① この要綱は空き家バンクの登録及び取引の促進を図り、定住促進による地域の活性化に資すること目的としているが、平成28年からの実績を伺う。
- ② 令和3年度の実績は、空き家改修補助金交付が31件であるが現在も入居中か伺う。

2 まちづくり総合交付金について

- ① 令和3年度決算資料によると、交付金額が約1億円であるが、この事業を開始してから、まちづくりが、どのように出来たか検証結果を伺う
- ② 単独自治会・町内会の委員会が、86団体、131の町内、6,179世帯であり、交付金額が、約1,000万円であるが、交付金の使用状況を伺う。
- ③ まちづくり委員会に対して、自主防災組織の設立を義務づける考えは無いか伺う。

一般質問発言通告書

議席番号 3 番

氏名 大谷 学

答弁を求める者

☒ 市長

☒ 教育長

☐ 監査委員

☐ 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 県立大学を生かしたまちづくりについて

(1) 県立大学が浜田市に及ぼす経済的効果について

- ① 1993年に島根県立国際短期大学が開学し、2000年に県立大学に移行して、野原町に大学が設置され30年が経過する。現在、約1000人の学生が学び、教職員約100人で運営されている。この約1100人を含めた県立大学が浜田市全体に及ぼす経済的効果は何億位と推定するか、その認識を伺う。

(2) 大学周辺のまちづくりについて

- ① JR出雲市駅の南側約2kmの田畑の中に1975年に設置された国立島根医科大学（現在は島根大学医学部）周辺は、設置から47年が経過することによって田畑から街へと大きく変容し活気を呈している。

この例のように大学が設置されると、その周辺は街へと変容していくのだが、浜田キャンパスの場合は30年が経過してコンビニもなく変容に至っていないように感じる。この現状をどのように受け止めているか、その認識を伺う。

- ② 変容に向けて何が求められるか、その認識を伺う。

2 豊かな創造力を育む文化行政について

(1) 策定中の第3次浜田市子ども読書活動推進計画について

- ① 令和4年度に策定する予定の第3次の子ども読書活動推進計画においては、どのような読書活動の環境整備をしようとしているのか、その改善点を伺う。

(2) ガラスを多用している中央図書館の設計コンセプトについて

- ① 中央図書館を浜田警察署側から見ると、アルファベットの大文字のEの字のような平面構造で、アルファベットの大文字のEの字の横線にあたる浜田川方向に突き出した3つの開架図書室は、東南西の3方向がガラス壁面で囲まれている。なぜ、このようなガラス壁面を多用する設計にしたのか、確認のため理由を伺う。

(3) 図書館の蔵書管理について

- ① 図書の中には時間の経過により歴史的資料になり得るものがある。また、希少性が増すことによって将来においては、文化財級の価値を見いだす可能性もある。

よって、図書は、光によって劣化しないように配慮すべきであるが、特に中央図書館の場合は、太陽光の遮光板もなく蔵書に太陽光が直接もしくは間接的に当たり、色落ちなどの劣化が激しい状況にある。早急な対策が必要とを感じるが認識を伺う。

- ② 利用者からの改善に向けての意見は、どのように集約され対応しているのか、その体制について、その現状を伺う。

発言No.

3

受付No.

12

令和4年11月22日

9時40分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 16 番

氏名 芦谷 英夫

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長

☒ 教育長

☐ 監査委員

☐ 選挙管理委員会委員長

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、協働のまちづくり推進に向けた態勢づくりについて

- ①協働のまちづくりには、地域福祉が重要であるが、改定する地域福祉計画では、まちづくり推進委員会、地区社会福祉協議会などの位置づけを明確にし、具体的に協働のまちづくりと整合を図ることが必要であるが、どのように計画策定を進める考えか。
- ②協働のまちづくり推進には、地域の世話役の位置づけが重要となるが、環境清掃指導員、福祉委員などの活動の状況はどのようになっているか、市としてこれからどのように位置づけ、地域活動を支援するのか。

2、郷土資料館の整備と市民の歴史文化活動について

- ①浜田郷土資料館には、多くの重要な歴史史料などが保存され、一日も早い公開が待たれ、市として、市民への理解を深める具体的な事業が求められ、積極的な企画展の開催などが必要であるが、今後どのように進める考えか。
- ②松阪市との友好の会など他都市との市民レベルでの友好交流の状況、歴史文化の学習や啓発事業、調査研究などの活動状況はどのようになっているのか。

3、文化、スポーツ行政の推進態勢について

- ①石中央文化ホール、各まちづくりセンター、図書館などを舞台とした、それらを活用した文化活動、芸術活動の活動回数、参加の状況などは概括的にどのように推移し、どう評価しているのか。
- ②スポーツ施設の利用状況、スポーツ団体の組織数、会員数、活動状況は概括的にどのようになっているか、どう評価しているのか。

4、地域包括支援センターの状況について

- ①地域包括支援センターを社会福祉協議会に委託した後の利用状況、市民サービス向

上の状況などはどのようなになっているか、利用者からはどのような声が寄せられているのか、利用しにくいなどの声は寄せられていないのか。

②社会福祉協議会としての体制づくりに課題があるが、専門職員の充足状況はどうか、市職員の派遣などはどのようなになっているのか。

5、市道、赤道、青線の管理体制について

①位置指定道路では、道路の管理、カーブミラーの設置、交通安全施設設置などに支障があるが、市として積極的に市管理下に置くことで、生活者の居住環境の整備、交通安全対策などを進める考えはないか。

②赤道、青線の管理は行き届いているのか、青線に隣接して住宅が建てられ排水される場合、家庭排水が垂れ流しになり、環境の悪化が懸念されるが、このような住宅建設に伴う青線の改修などは市が行う必要があるのではないか。

—以上—

発言No.

4

受付No.

13

令和 4 年 11 月 22 日

9 時 59 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 2 番

氏名 村 木 勝 也

答弁を求める者

(○をつける)

☐ 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

☐ 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 「自主防災組織の役割」について

(1) 住民参加型防災訓練について

- ① 11 月には、津波地震を想定した避難訓練や地域での防災イベントがあったが、その実施状況を伺う。
- ② 浜田市自主防災組織代表者会議(6 月の訓練検証)の状況について伺う。
- ③ 防災訓練で大切なことは、地域での災害想定と事前の話し合いであると思うがその考えを伺う。

(2) 「公助」における「共助」からの「自助」について

- ① 11 月 12 日に開催された、浜田市主催の「防災講演会」と島根県が主催した「防災リーダー研修会」の実施状況を伺う。
- ② 今後、自主防災組織の結成率の目標達成においてもなぜ自主防災組織が必要なのかが大切である。「自主防災組織の役割」の考えを伺う。

2 「浜田市 2050 年ゼロカーボンシティ表明」と防災について

(1) 「市民と共に学ぶ環境づくり事業」について

- ① 一つ目の「市民と共に学ぶ環境づくり事業」はどのような取り組みとなっているか現状を伺う。
- ② 地区まちづくり委員会等、地域自治組織や各種団体に期待することは何か伺う。

(2) 「地域の再生可能エネルギー導入支援事業」について

- ① 二つ目の「地域の再生可能エネルギー導入支援事業」はどのような取り組みとなっているか現状を伺う。
- ② 令和 5 年度の「浜田市再生可能エネルギー設備導入支援事業補助金」の予算方針について伺う。

(3) 「公共施設への再生可能エネルギー導入事業」について

- ① 三つ目の「公共施設への再生可能エネルギー導入事業」はどのような取り組みとなっているか現状を伺う。
- ② 浜田市地域防災計画に定める指定緊急避難場所、指定避難所及び福祉避難所等において、防災の視点から再生可能エネルギー導入についての考えはないか伺う。

3 「指定緊急避難場所」の防災機能について

- ① 指定緊急避難場所を含めた市内5か所の公園等に、現在、どのような防災機能があるのか伺う。
- ② 防災公園ではないものの、災害時において多くの避難者が見込まれる。今後、地域防災計画でそれぞれの地域に合った防災機能を計画し、整備する考えはないか伺う。

発言No.

5

受付No. 14

令和 4 年 11 月 22 日
10 時 18 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 1 番

氏名 肥後 孝俊

答弁を求める者 ○市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

市は災害に強いまちづくりを目指しているが、住民の防災意識向上に向けた取組、避難所の現状、避難した後のことについて問う。

1. 住民の防災意識を高める取組について

(1) 自主防災組織の役割について

- ① 現在の組織数と組織率について問う
- ② 今後の課題について問う
- ③ 若い方への周知と参加への取り組みについて問う

2. 避難所について

(1) 市内の避難所の数と課題について

- ① 土砂災害警戒区域にある避難所の数について問う
- ② 浸水想定区域にある避難所の数について問う
- ③ 津波浸水想定区域にある避難所の数について問う
- ④ 避難所の耐震化率について問う
- ⑤ 避難所における課題について問う

3. 第2次浜田市総合振興計画内の「災害に強いまちづくりの推進」について

(1) 令和2年に策定された浜田市国土強靱化地域計画について

- ① 防災活動体制の強化の中で『避難所のエネルギー確保』について問う

(2) 住民が避難した後の環境について

- ① 旭公園市民体育館の防災型非常用電源装置更新工事の内容について問う
- ② 避難所における空調設備の有無について問う

(3) 浜田市役所、各支所が被災し停電が発生した場合の電源確保について

- ① 本庁舎の非常用自家発電設備について問う

発言No.

6

受付No.

18

令和

年

月

日

時

分

受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 9 番

氏名 柳楽 真智子

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 介護予防について

(1) 介護予防日常生活支援総合事業について

- ①平成29年4月から介護予防・日常生活支援総合事業がスタートしました。それまで行われていたミニデイサービスが廃止となり、緩和型のデイサービスや各地域で住民主体のサロン活動が行われていますが、現在の緩和型デイサービスの実施事業者数と、把握されているサロンの数、その中で活動休止になっているサロン数を伺います。
- ②ふくっぴーサロンが今年度で終わると伺いました。この取組は浜田地域に限られていると思いますが、改めて浜田地域に限定された理由について伺います。
- ③ふくっぴーサロン終了後、それに代わる取組をどのように進められるのか伺います。
- ④総合事業スタート当時から、サロン会場までの移動手段の課題によって、参加者が限られるとの心配がありました。これまで予約型乗合タクシーの活用も提案いたしましたが、現在進められているあいのリタクシーの活用にも期待しております。現在の活用の有無と、今後の活用の可能性について伺います。
- ⑤様々な組織で後継者の不足が指摘されています。地域のサロンについても今後、中心となって運営して下さる人材確保が厳しくなるものと推察しますが、市としてどのように支援されるのか伺います。

(2) 生活支援コーディネーターについて

- ①総合事業がスタートし生活支援コーディネーターが配置されました。事業が始まる前の浜っ子タイムズでは、「地域の高齢者サロンや地域活動を行う人たちと接することで情

報を共有し、地域の実情に応じた生活支援を考えていく。従来の社会保障制度の取組と大きく異なるもので、むしろこれは、まちづくり・地域づくりの取組ともいえる。このような取組で介護がなるべく必要のない社会を作っていこうと考えている」と説明されていました。コーディネーターの皆さんは、新たな取組の中で悩みながら進めてくださったと伺っていますが、市としてどのように評価しているのか伺います。

②この生活支援コーディネーターの配置について、今後の進め方を伺います。

2. 出産・子育て応援交付金事業について

国は、すべての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができる環境整備のための事業として、出産・子育て応援交付金事業を創設することとしております。市町村が創意工夫を凝らしながら、妊娠届時から妊婦や0歳から2歳の低年齢期の子育て家庭に寄り添い、面談や継続的な情報発信等により、必要な支援につなぐ伴走型の相談支援の充実を図るとともに、出産・育児関連用品の購入や子育て支援サービスの利用負担軽減のための経済的支援が実施されます。

(1) 経済的支援と伴走型支援について

- ①妊娠届出時と出産届出時の面談を終えた後に、それぞれ5万円ずつ合計で10万円の支援を行うものですが、浜田市ではすでに新生児子育て応援金が支給されております。この事業に上乗せするのか、別のサービス等に使えるものにするのか伺います。
- ②今回の事業で国が重視しているのが、伴走型の相談支援ということであります。妊娠・出産の届出時の面談はもちろんのこと、その間や育児期まで継続的な相談支援のために、SNSやアプリを活用したオンラインの面談や相談、プッシュ型の情報発信、随時相談の実施が推奨されています。浜田市ではすでにアプリが導入されていますので、いち早く取り組むことができると期待しておりますが、ご所見を伺います。
- ③伴走型相談支援の実施主体は市町村となっておりますが、民間への委託も可能とされています。浜田市として民間活用の考え方を伺います。

3. 防災・減災について

(1) 防災講演会について

11月12日に本庁と各地域をつないで防災講演会が行われました。あらためて防災・減災に

ついて確認させていただきましたので、いくつか確認を含め質問させていただきます。

- ①この講演会の参加対象とされた団体名および参加団体数と人数。そして、参加対象団体数に対する参加率を伺います。
- ②自助・共助が重要だと言われますが、住民の多くは普段から災害時の自助についての対策が取られていないため、大規模災害時の共助もできないのだとの指摘がありました。防災出前講座でマイタイムラインの活用なども訴えていただいておりますが、作成に至っていない現状もあると思います。作ってもらう・確認してもらうことが必要と考えますが、その対策をどのように進められているか伺います。
- ③講演会の中で認識を新たにしたのが、防災の基本となる「予防と被害抑止」ということです。どうしても訓練に目が向きがちですが、自分の身を守るために第一に必要な対策が進んでいないと考えます。今後の総合防災訓練の内容のひとつにこの観点をしっかりと示すべきと考えますが、今後の対応を伺います。

